

二〇二六年度入学試験

前期入試試験問題

国語

注 意

- 一. 開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 二. 受験番号を解答用紙の二か所に書き、答えはすべて**解答用紙**に書きなさい。
- 三. 問題は

 から

 までで、十三ページにわたって印刷してあります。
- 四. 終了のチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具を置きなさい。

① 次の各問いに答えなさい。

問 1 線のカタカナを漢字に直しなさい。送りがなが必要な場合は、それをひらがなで書きなさい。

ヨキしない出来事。

川にハシをかける。

仕事のノウリツを上げる。

毛糸をアム。

秘密ひみつをアバク。

問 2 線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

目にも止まらぬ早業。

血色がいい。

計画を根本から見直す。

地元で商いをする。

流れに逆らう。

(5)(4)(3)(2)(1)

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(設問の都合で省略した箇所があります。また、図1-14は省略しました。)

イルカの母乳は超高脂肪!

水中生活に移行するにあたり、^①イルカのからだからは、体毛や皮脂腺なども消失していきました。体毛の存在はやはり水の抵抗のもとになりますし、また、皮脂はもともと体表の潤滑剤のような役目をはたすものですから、^②水中で暮らすイルカにとっては必要ないのです。

ただし、体毛に関しては胎児の段階(図1-14)や^③生まれたばかりの子どものイルカでは、口の周辺に毛が見られることがあります。また、ヒゲクジラでは十数本から数百本と、吻の一部に毛が残っている種もあるようです。水流や餌の有無を感じするための感覚毛として機能しているのかもしれませんが。こうして、イルカはなめらかで流線型をした格好のいいからだつきと強靱な尾ビレのおかげで、優雅でもあり、力強くもある泳ぎをすることができるようになりました。

しかし、彼らのからだが^④このような形になったことによる利点はほかにもあります。流線型になって余分な凹凸がなくなること、からだの表面積が小さくなりました。同じ体積の物体どうしの場合、表面積が小さいほど消失する熱量も小さくなる性質があります。からだの凹凸を減らして体表面積を小さくすることで熱の放出を抑え、その結果、イルカたちの体温維持に貢献することとなったのです。

体温を保つためのしくみはこれだけではありません。イルカの皮膚の下には分厚い脂肪の層があります。これが断熱材となって熱の放出を抑えられています。しかし、よく考えてみると、太古の昔に哺乳類が初めて海から陸に上がったとき、体温を保持するために必要としたのは体毛だったはずでした。したがって、イルカやクジラの祖先たちにも体毛があったと考えられます。

1、ふたたび水中生活へと還ったイルカたちは、こんどは泳ぐ妨げになる体毛を捨て、代わりに皮下脂肪を蓄えることで体温を維持するしくみをつくりあげたのです。この脂肪を蓄えるために、母親は生まれたばかりの子どもに高脂肪の乳を与えます。その脂肪分は三〇パーセント前後、あるいはそれ以上です。ヒトやウシ、ヤギなどでは四パーセント前後という値なので、同じ哺乳類ながら、イルカ(他の海獣も)の母乳の脂肪分がいかに高いかわかります。

からだに占める脂肪の割合(いわゆる体脂肪率)について見てみると、小型のイルカでは三〇〜四五パーセント、特にネズミイルカ(日本では東北地方から北海道沿岸、オホーツク海などに生息しています)では四五〜六〇パーセントという数値になっています。極寒な水温から身を守るためでしょうか。ちなみに、陸棲の哺乳類では、イヌやネコで二〇パーセント程度、ブタは十数パーセント、チンパンジーやサルは一〇パーセント前後です。

餌や仲間を求めて、つねに活発に泳ぎまわっていると、体温が高くなりすぎてしまうこともあります。私たちは、暑いときにはうちわや扇風機の風を顔やからだに当てて涼みますが、実は^⑤鯨類も同じようなことをします。泳ぎまわって体温が上がりすぎてしまった彼らは、ヒレを空气中に高く掲げて、からだを冷やすのです。ヒレの皮膚の下には特有の血管網があり、体温が上昇したときにはその血管網の小静脈に多くの血液を流して“空冷”することで、熱を体外に放出して体温を下げようと試みるわけです。

(中略)

二時間ごとに生まれ変わる皮膚

さて、水中を自由に泳ぎまわるためには、実はからだを流線型にただけでは、まだ完全に水棲生活に適応したとは言えません。

ガラスや金属のように、どんなに表面がつるつるなものでも、そこを水や空気のような流体が通ると、かならず表面に小さな「過流」が生じます。この過流が曲者で、抵抗となって水の流れを妨げたり、泳ぐ速さを落としてしまうのです。イルカの皮膚はともなめらかで、肌ざわりもつるつるしていて、気持ちのいいものです。ところが、水中を泳いでいても、彼らの体表面には過流は生じません。なぜでしょうか？

理由は、彼らの皮膚にあります。実際に触ってみるとわかりますが、イルカの皮膚は非常になめらかであることに加えて、弾力性にも優れています。泳いでいるときのイルカの皮膚は、この弾力性のおかげで、体表面を流れる水流に応じてうねったりたわんだりしています。そのため体表面に過流が生じないので、抵抗が小さくなって、水中を高速で泳ぐことができます。

(中略)

イルカやクジラの皮膚は、二時間ごとに更新されていくことがわかっています。現に、水族館でイルカのいるプールに皮膚の断片が浮いていたりすることがあります。薄くはがれるようにひんぱんに皮膚が更新されていくことも、皮膚の抵抗を減らすのに一役買っているのかもしれない。

ここまでにご紹介してきたように、二度めの水中生活に移行するのにもなつて、イルカたちが得たもの／失ったものはさまざまにあり、それらの結果として、現在の姿・形ができあがったのです。いやはや、水中に餌を求めてしまったばかりに、かつて陸上で暮らしていたころとは似ても似つかない姿に「変身」をとげてしまったというわけです。

3 「長く」「深く」「潜水できるからだの謎

めったに息継ぎしないイルカ

水族館のショーでは、たくさんのイルカたちがさまざまなパフォーマンスを見せてくれます。しかし、水中での様子を見ると、イルカはそういう行動をするあいだもずっと潜ったままで、^⑥ なかなか呼吸をしないことに気がつきます。苦しくないのか、と心配になるくらいです。

イルカは、ヒトに比べてはるかに長時間、呼吸をしないことができます。私たちと同じ、肺で呼吸する哺乳類なのに、^⑦ イルカたちにはどうしてそんなことができるのでしょうか？

水泳をするとき、私たちは長く息を止めていられるように、大きく息を吸い込んでから水に飛び込みます。長時間潜るためには、肺にたくさんの空気を貯める必要があるからです。

イルカは「ブファッ！」といった、ものすごい風圧をとまなう呼吸をしますが、一回の呼吸で肺の中の空気の実に八〇〜九〇パーセントが入れ替わりま

す。ヒトでは、通常の一回の呼吸で入れ替わるのは一〇〜二〇パーセントですから、イルカの呼吸では私たちの数倍の量の空気が交換こうかんされている、すなわち、それだけ多くの新鮮しんせんな空気が肺に入っていることになります。イルカは、ヒトの何倍も“深い”呼吸をすることによって、多くの酸素を肺の中に貯め込んでいます。

ヒトの体内に取り込まれた酸素は、血液中の「ヘモグロビン」というタンパク質と結合して、肺から全身へと運ばれていきます。イルカもこのしくみは同じで、やはりヘモグロビンが酸素の運搬役うんぱんやくをはたしています。イルカの体内を流れる血液が、まず一つめの酸素の貯蔵場所ちようざうとなるわけです。酸素を蓄えている場所は、血液だけではありません。筋肉には多量の「ミオグロビン」というタンパク質が含まれており、やはり酸素と結びつく性質をもっています。ミオグロビンのおかげで、イルカはからだを取り巻く骨格筋にも多量の酸素を蓄えています。呼吸で取り込んだ酸素の約四〇パーセントが、筋肉に蓄えられているというデータもあるほどです。

心拍数を下げて酸素を節約

2、月末になると懐ふしがさみしくなる人が増えますね。さて、どうしましょうか？

光熱費はあまり減らせませんが、たとえば食費を切り詰めたり、遊びに行くのを控えたりして、なるべくお金が出ていかないような算段さんだんをしなくてはなりません。実は、イルカの呼吸もそれと同じことをしています。

いくつかの動物では、水に潜ると心拍数が低下する「徐脈」という現象が起きることが知られています。イルカもその一つです。水中で体内の酸素量が低下すると、イルカは心拍数を下げ、全身に血液が循環するのを抑えて、脳や心臓といった最重要器官にだけ血液が向かうように調節しています。懐が寒くなったら、次の給料日や仕送りまで極力、支出を減らすのと同じです。酸素が足りない状況では、次の呼吸まで効率よく酸素の消費を「節約」しているわけです。

イルカは、一回の呼吸で吸い込んだ空気のほとんどを肺に残すことなく、血液や筋肉に送り込んで蓄えます。その一方で、酸素の消費を節約することによって、長時間の潜水に対応できるからだのメカニズムになっているのです。

食事を求めて三〇〇メートルの深海底へ

かつて、深さ三〇〇メートルの海底に敷設された海底ケーブルに、マッコウクジラが引っかかって死んでいるのが見つかりました。

この事実から、マッコウクジラがこの深さまで潜水できることが判明したのですが、イルカはそもそも海底深くまで潜っていくことができます。最大潜水深度では、マッコウクジラに次いで、イッカク（歯が牙のように長く突き出たイルカ）が一〇〇メートル、シロイルカが六四七メートル、バンドウイルカが五三三メートルなどという記録が残っています。東京スカイツリーが六三四メートルですから、いかに深く潜れるかがわかります。

もちろんその間、呼吸を止めていなければなりません。三〇〇メートル潜水するマッコウクジラは一三八分間、実に二時間以上も呼吸をせずに潜りつづけるのです。ヒトの素潜りでは一〇〇メートルを超えると世界的な記録になりますから、いかにイルカたちがすごいかがわかるというものです。

（出典 村山司『海に還った哺乳類 イルカのふしぎ イルカは地上の夢を見るか』）

問 1 ——— 線部①「イルカのからだからは、体毛や皮脂腺なども消失していきました」とありますが、イルカのからだから体毛や皮脂腺が消失したのはなぜですか。それを説明した次の文の（A）・（B）に入る言葉を、それぞれ指定された字数で本文中からぬき出して答えなさい。

体毛は（A 七字）となり、皮脂腺は（B 六字）であるため、水中ではどちらも必要ないから。

問 2 ——— 線部②「水中で暮らすイルカにとっては必要ない」とありますが、この「ない」のはたらきとことなるものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 私の部屋はそれほど広くない。

イ 学校から駅までは遠くはない。

ウ 今度買った品物の質はあまり良くない。

エ あまり本を読まない。

問 3 ——— 線部③「生まれたばかりの子どものイルカでは、口の周辺に毛が見られることがあります」とありますが、口の周辺の毛の役割を筆者はどのように考えていますか。本文中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

問 4 ——— 線部④「このような形になったことによる利点はほかにもあります」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 「このような形」とはどのような形ですか。本文中の言葉を使って、十字以内で答えなさい。
(2) ほかの利点を本文中から五字以内でぬき出して答えなさい。

問 5

1	・	2
---	---	---

 に当てはまる言葉を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア たとえば イ しかし ウ あるいは エ だから オ ところで

問 6 ——— 線部⑤「鯨類も同じようなことをします」とありますが、鯨はどのようなことをするのですか。「くこと。」に続くように本文中から二十字以内でぬき出して答えなさい。

問 7 ——— 線部⑥ 「なかなか呼吸をし こと に気がつきます」とありますが、 こと に入る言葉を答えなさい。また、次の(1)・(2)の()の中に入る言葉をそれぞれ一語で答えなさい。

- (1) たぶん彼女は遅れてくる()。
- (2) 試合は延期になった。() 雨が降ってきたからだ。

問 8 ——— 線部⑦ 「イルカたちにはどうしてそんなことができるのでしょうか？」について、次の各問いに答えなさい。

- (1) 「そんなこと」とはどのようなことですか。本文中から十五字でぬき出して答えなさい。
- (2) イルカたちはなぜ「そんなことができる」のですか。本文中の言葉を使って二十五字以内で答えなさい。

問 9 本文中の()の内容の説明として、ふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 体内に取り込まれた酸素は、血液中の「ヘモグロビン」と結合して全身へと運ばれる。
- イ 血液中の「ヘモグロビン」は、骨格筋に多量の酸素を蓄える働きをしている。
- ウ 血液中の「ミオグロビン」は、タンパク質と結合して、酸素の運搬役をしている。
- エ 蓄えられた多量の酸素は、筋肉の中の「ミオグロビン」と結合して質の良い筋肉を作る。

問10 本文の内容を、Aさんは次のようにノートにまとめました。次の表の(1)～(4)に当てはまる数字をそれぞれ答えなさい。

	イルカ	鯨	人間	イヌ・ネコ
母乳の脂肪分	(1) パーセント程度あるいはそれ以上		(3) パーセント程度	
体脂肪	三〇～四五パーセント			(4) パーセント程度
一回の呼吸における肺の中の空気の入れ替わり	八〇～九〇パーセント		一〇～二〇パーセント	
潜水の記録	シロイルカ 六四七メートル バンドウイルカ 五三五メートル	(2) メートル		

問11 本文の内容の説明として、ふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア すべての哺乳類は、水中での生活に適した姿になった。
- イ イルカは水に潜ると、心拍数が速くなるという現象が起こる。
- ウ イルカはどれだけ泳いでも体温は常に一定であるため、速く泳ぐことができる。
- エ ヒトとイルカを比較すると、イルカの持つ能力の高さがわかる。

③ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

針はりに通した白い糸を目の高さに持ち上げて、①指さしでぴんと弾はじいた。糸が揺ゆれる時、一緒いっしょになにかが揺ゆれる。「なにか」がなんなのかは自分でもよくわからない。「心が揺ゆれる」というのとも違ちがう。しいていえば世界かもしれない。僕ぼくがいる、見ているこの世界全体が、ほんの②瞬いつしゆん姿いづしやうを変えるのだ。ほんのすこしだけ。でも確実に。

ガーゼを三重に重ねた白いドレスはふわふわとやわらかい。このあいだ本を読んでいたら「②春先はるごころにつもる雪ゆきのような」という表現が出てきて、そのことにすこし驚おどろいた。このあたりでは春先はおろか真冬でも雪がつもることはほとんどない。僕には見たことのない世界がいつぱいある。白いガーゼに触ふれるたびに、そのことを思い出す。

針はりを刺さし入れようとして、やつぱりそこで手がとまってしまう。最初のひと針を入れようとするたび、こうなる。

おい。おい。襖ふすまの向むかうから呼よばれていることに気がついた。「清澄きよすみくん」と声は続く。そんなふうに僕の名を呼ぶ人は今のところひとりしか存在しない。顔を上げると、すすすと襖ふすまが開いた。紺野こんのさんが顔をのぞかせる。

「ごめん、返事がなかったから。勝手に開けた」

「すみません。考えごとしてたんで」

③姉あねの婚約者こんやくしやが家に来ていることを、今の今まで忘わすれていた。それはつまり、紺野さんがすでにすっかりうちになじんでしまっている、ということだ。祖母は「ちよつと、お皿出してくれる？」なんて自分の孫みたいにあつかうし、母もじつに気安く「あんた」なんて呼びかけたりなんかしている。

居間からテレビのクイズ番組らしき音が漏もれ聞こえてきた。それにかぶせるようにして、姉の笑い声も。

「入ってもええかな」

「どうぞ」

ここは祖母の部屋なので「どうぞ」と僕が言うのはおかしいのだが、あいにく部屋の主である祖母は留守だ。最近「マキちゃん」という人と仲が良い。今日も「夜遊び」をすると宣せんげん言して夕方から④出でかけていった。七十代女性ふたりの夜遊びしやうしあひの詳細はわからないが、最近の祖母がやたら潑はつ潑つとしていることはまちがいない。

「これが、清澄くんがつくったドレス？」

紺野さんは上体をぐつと反らせて、ボディに着せられたウェディングドレスに見入っている。一週間後の日曜日、姉はこれを着て紺野さんと結けつ婚こん式しきを挙げるのだ。

「違いますよ。僕がつくったわけではないんです」

姉から「レンタルのドレスはきらびやか過ぎて、どれも着る気がしない」という趣旨しゆしの愚痴ぐちを聞かされたのは、春頃はるごころのことだった。だったら姉が氣に

るようなドレスを僕がつくってあげようと決心したのだ。ドレスを縫った経験などなかった。知識もなかった。でもやってみたかった。母はいつものように「やめとき」と言っただけ、なんの根拠もなく自分ならできると思いこんだ。

「でも、だめでした」

どうにもならなくて、父を頼った。僕が一歳の時に母と別れてこの家を出た父。会うたび「金がない」とぼやく父。実年齢より若く見える（つまりなんだか頼りない）父。

でも黒田縫製に行った時の父は違った。父と父の職場の人たちは、ほぼ一日でこのドレスを縫い上げた。

ボディに巻きつけた布を父がちよこちよこつとピンで留めただけで、布は自由自在にかたちを変えた。父の手はオーロラのようなドレープを、雲のようなフリルを、何度でも、何とおりに、手品みたいにつぎつぎと生み出した。いつものふわふわした眠たげな口調もなりをひそめて、あとからやってきたおばさんたちにてきぱきと指示を出す父はまるきり④僕の知らない人だった。

⑤「すごいと思います？」

「うん、すごいな」

ノースリーブが嫌。かわいすぎるのは嫌。とにかくキラキラしてるのは嫌。

そんなドレスちやうわ、と僕が鼻白んだ姉の要望を、父と父の職場の人たちは一度も否定しなかっただけでなく、正確にその意図を酌んでこのドレスを縫い上げた。

ワンピースと呼んでも差し支えないほどシンプルでカジュアルなデザインと風通しの良いガーゼの素材は、人前に出ることが苦手な姉の緊張をきつとやわらげてくれるだろう。

「でも、仕上げは清澄くんがやるんやろ？」

自分の手でドレスを仕上げられなくて落ちこんでいた僕に、黒田さんが「刺繍を入れてみては」というアドバイスをくれた。

黒田さんは父の雇い主というか、相棒というか、そんな感じの人だ。僕にとってはある意味、父以上に父のような位置づけの人物でもあるのだが、その微妙なニュアンスを紺野さんに説明できる気がしない。すくなくとも今は。

「図案のことで、まだ悩んでるんです」

とにかく「無難」を重んじる姉を尊重して、裾のあたりにだけごく控えめに野の花を刺繍しようと思っていた。白い糸で、近くで見るとそれとわかる程度にさりげなく。でもなにかが違うような気がして、まだひと針もすすめられずにいる。だって僕がしたい刺繍は、そして姉にふさわしいのは「無難」なんかじゃないはずだから。

「でも、式はもう一週間後やで」

「そうなんですけど……」

ドレスはこのままでじゅうぶんすばらしいでさばえだ。僕の刺繍で⑥台無しにするようなことがあってはならないと思うと、なおさら手が動かなくなってしまう。

もう時間がない。刺繍を入れるにせよ、入れないにせよ、はやく決めなければならぬのに。

口ごもってしまった僕をちらりと見て、⑦紺野さんが咳払いをひとつした。

「質問してもいい？」

「どうぞ」

「そもそも、どういうきっかけで刺繍はじめたん？ いや、前から男子の趣味としてはめずらしいんじゃないかなと思ってて」

あ、おかしいとか言うてるわけではないねんで、とぐいぐい身を乗り出してくる紺野さんを「わかってます、わかってます」と押し戻した。刺繍をはじめたきっかけは、祖母がやっていたから。⑧でももちろんそれだけではない。

「刺繍は世界中にあつて、それぞれ違う特徴があるんです」

紺野さんが「へえ、そうなん」とふたたび身を乗り出す。

「たとえば日本にはこぎん刺しっていうのがあるんですけど、これってもともと布を丈夫にして暖かくするために糸を重ねたのがはじまりらしくて」

「ほう」

「あとね『背守り』って知ってます？ 赤ちゃんの産着の背中に刺繍する習慣があつたんですって。いわゆる魔除けです。鶴とか亀とかね、そういう図案を」

「ほう、ほう」

紺野さんが大きく頷く。⑨姉はきつとこの人のこういうところを好きになつたんだろう。自分がものすごくおもしろい話をしているみたいで、悪い気はしない。

日本だけじゃない。ルーマニアのある地方では、娘が生まれるとすぐにその子の嫁入り道具のシーツや枕カバーに刺繍をはじめめる。インドには「ミラーワーク」と呼ばれる鏡を縫いこんだ刺繍の技法がある。鏡が悪いものを反射して身を守ってくれる、と考えられているのだ。

「刺繍はずっと昔から世界中にあつて、手法はいろいろ違うのに、⑩そこにこめられた願いはみんな似てるんです。それってなんか、おもしろいでしょ」

世界中で、誰かが誰かのために祈っている。すこやかであれ、幸せであれ、と。

高校生になってからいろいろな刺繍に関する本を読んだりしているうちに、もっとくわしく刺繍の歴史を知りたいと思うようになった。そこにこめられた人々の思いを、暮らしを、もっと知りたいと。

人に話すのはこれがはじめてだった。目標というほどたしかなものではなかった欲求が、言葉にした瞬間に輪郭を得た。そうか僕はそんなふう考えていたのかと、目を瞑る。輪郭をよりくつきりとしたものにしたいと、もう一度口に出した。

「知りたいんです、もつと」

「すごいなあ。壮大そうだいやなあ」

「いや、壮大そうだいって、そんな」

「壮大な弟ができてうれしいわ」

そこまで屈託くつたくなく喜ばれるとこつちが恥はずかしい。身体からだの向きを変えて、じわじわ熱くなる頬ほを見られないようにした。

(出典 寺地はるな『水を縫う』)

問1 ――線部①「指でぴんと弾いた」とありますが、指で弾くことでどのようなことが起こると「僕」は感じていますか。それを説明した次の文の()に入る言葉を、本文中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

糸が揺れるのと一緒に、()と感じている。

問2 ――線部②「春先につもる雪のような」とありますが、これと同じ表現技法を用いているものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 僕は急いだんだ、学校に。 イ 人々がまるでアリみたいに見えた。

ウ 青い空、白い雲。 エ 犬がワンワンとほえている。

問3 ――線部③「姉の婚約者が家に来ていることを、今の今まで忘れていた」とありますが、「今の今まで忘れていた」のはなぜですか。次の中からふさわしいものを一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 姉の婚約者が僕の家族にとけこんでいたから。 イ 祖母の部屋は物音が聞こえにくいから。

ウ ドレスの制作作業に集中していたから。 エ 刺繍つかに疲れ、眠くてしかたがなかったから。

問4 に当てはまる言葉を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア ふらふらと イ ぞくぞくと ウ いそいそと エ ゆらゆらと

問5 ――線部④「僕の知らない人だった」とありますが、この時の「僕」の気持ちを、本文中の言葉を使って四十字以内で答えなさい。

問 6 —— 線部⑤ 「すごいと思いませんか？」とありますが、何が「すごい」のですか。それを説明した次の文の（ ）に入る言葉を、本文中の言葉を使って二十五字以内で答えなさい。

父と父の職場の人たちが、（ ）こと。

問 7 —— 線部⑥ 「台無しにする」とありますが、この語句の使い方として正しいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア あまり行きたくなかった旅行が、雨のおかげで台無しになった。

イ 楽しみにしていた演奏会が、台風えんそうかいの接近によって台無しになった。

ウ ずっと勉強してきたので、定期試験の結果は台無しになった。

エ ケーキが上手に焼けたので、お茶の時間が台無しになった。

問 8 —— 線部⑦ 「紺野さんが咳払いをひとつした」とありますが、この時の紺野さんの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 義理の弟になる僕との、気まずい関係を変えようと思っている。

イ 刺繍は男の子の趣味としてはふさわしくないと本心では思っている。

ウ 刺繍を早く仕上げるように急がせようと思っている。

エ 改まった気持ちで僕に話をしようと思っている。

問 9 —— 線部⑧ 「でももちろんそれだけではない」とありますが、僕が刺繍をはじめたきっかけは、祖母がやっていたことの他に何がありますか。それがわかる続きの二文を本文中からぬき出し、初めの五字を答えなさい。

問10 ――線部⑨「姉はきっとこの人のこういうところを好きになったんだろう」とありますが、姉は、紺野さんのどういうところを好きになったと僕は考えていますか。次の中からふさわしいものを一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 相手が年下であっても年上であっても態度を変えないところ。

イ 相手の話にうそがないか、見きわめようとするところ。

ウ 相手の話にうなずきながら、熱心に聞き入ってくれるところ。

エ 相手が話しやすいように、次々に新たな質問を出してくれるところ。

問11 ――線部⑩「そこにこめられた願い」とありますが、その「願い」とは何ですか。「〜という願い」に続くように本文中から十五字以内でぬき出して答えなさい。

問12 本文についての説明としてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア たとえを多く用いて、清澄や登場人物の心情や様子が読者に伝わりやすくなっている。

イ 清澄のセリフを少なくすることで、彼が心の中で家族や紺野さんに複雑な思いを抱^{いだ}いていることを表している。

ウ 紺野さんと話をする中で、清澄が自分のしたいことをはっきり自覚^{あせ}した様子がわかるように描^{びょうしや}写されている。

エ 短文を重ねることで、早くドレスを仕上げたいと焦る清澄の気持ちが表現されている。

問13 この作品の「僕」のように、あなたが今までに興味を持って取り組んだことを一つ取り上げ、そのどのような点に興味を持ったのか、八十字以上百字以内で書きなさい。

これで問題は終わります。